全国保育士養成協議会　東北ブロック
2020年度　第5回「保育士養成教科目の教授法研究会」

オンライン授業に向けた今後の授業計画案

（演習系科目）

2020年5月9日（土）

東北福祉大学　総合福祉学部 社会福祉学科
高野　亜紀子

本題に先立ちまして

オンライン授業に向け、

第1回　上村　裕樹先生（聖和学園短期大学）
第2回　永井久美子先生（神戸女子短期大学）
第3回　伊藤　理絵先生（岡崎女子短期大学）

からご教示頂いた先行事例、貴重なご助言のお陰で、見通しを立てることができました。

また、

第1回　山﨑敦子先生（東北福祉大学）
第4回　青木一則先生、河合規仁先生（東北福祉大学）

のご発題を受け、

養成校内での教科の連動性を踏まえ、ゼミの授業構成を考える大切さに、改めて気づくことができました。

「お顔が見える関係」の大切さ、ありがたさを改めて実感しています。
貴重な気づき、学びの機会を頂き、ありがとうございます。

担当科目

【講義科目】

科目名	対象
児童・家庭福祉論	全学科・1～4年生（約8割が1年生）
子ども家庭支援論	主に保育士課程・2年生以上

【演習科目】

科目名	対象
リエゾンゼミⅠ	社会福祉学科・1年生
社会福祉援助技術演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	社会福祉士課程・2、3、4年生
社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	社会福祉士課程・4年生
リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）	保育士課程・2年生
保育実践演習	保育士課程・3年生

社会福祉士課程のゼミ

保育士課程のゼミ

【その他】保育士・幼稚園・社会福祉士課程の実習指導、社会福祉士国家試験対策関係科目

東北福祉大学の保育士課程

【学生の内訳】

学部・学科	定員	保育士以外に取得できる主な資格・免許
総合福祉学部　社会福祉学科	50名	社会福祉士国家試験受験資格
教育学部　教育学科	100名	幼稚園教諭

【ゼミの編成】

- 学科ごとではなく、学生の地元の地域ごとに編成
  （極力、ゼミ担当教員が実習巡回へ行けるように、地域性を配慮）
- 2年生、3年生とも合計7ゼミ（7教員が担当。原則持ち上がり制）。

「リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）」

【保育士課程2年ゼミの名称】

- 「社会福祉援助技術」（演習）という名称が社会福祉士課程の演習名と重複。
  ⇒「リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）」へ。

【取り組み方】

- 7ゼミ共通資料に基づき授業を実施。
  ＝　学生は、ゼミ担当教員が異なっても、同じ内容の授業を受ける。

【大切にしたいこと】

- 保育士は、保育の専門家であると同時に、社会福祉の専門職でもある。
  ⇒　社会福祉援助技術実践を理解する必要がある。

「リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）」の科目内容

【カリキュラム改正との関係】

2001（平成13）年
「社会福祉Ⅱ」（演習）⇒「社会福祉援助技術」（演習）に変更

↓

2010（平成22）年
「社会福祉援助技術」（演習）
⇒「保育相談支援」（演習）　「相談援助」（演習）に分割。

↓

2019（令和元）年
「保育相談支援」（演習）　「相談援助」（演習）
⇒「子育て支援」（演習）
「保育相談支援」（演習）「相談援助」（演習）「家庭支援論」（講義）
⇒「子ども家庭支援論」（講義）

「リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）」のシラバス

【保育の本質・目的に関する科目】

＜科目名＞
相談援助（演習・１単位）

＜目標＞
1．相談援助の概要について理解する。
2．相談援助の方法と技術について理解する。
3．相談援助の具体的展開について理解する。
4．保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

＜内容＞
1．相談援助の概要
（1）相談援助の理論
（2）相談援助の意義
（3）相談援助の機能
（4）相談援助とソーシャルワーク
（5）保育とソーシャルワーク
2．相談援助の方法と技術
（1）相談援助の対象
（2）相談援助の過程
（3）相談援助の技術・アプローチ
3．相談援助の具体的展開
（1）計画・記録・評価
（2）関係機関との協働
（3）多様な専門職との連携
（4）社会資源の活用、調整、開発
4．事例分析
（1）虐待の予防と対応等の事例分析
（2）障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析
（3）ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析

【保育の内容・方法に関する科目】

＜科目名＞
子育て支援（演習・１単位）

＜目標＞
1．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2．保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

＜内容＞
1．保育士の行う子育て支援の特性
（1）子どもの保育とともに行う保護者の支援
（2）日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
（3）保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
（4）子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
2．保育士の行う子育て支援の展開
（1）子ども及び保護者の状況・状態の把握
（2）支援の計画と環境の構成
（3）支援の実践・記録・評価・カンファレンス
（4）職員間の連携・協働
（5）社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
3．保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）
（1）保育所等における支援
（2）地域の子育て家庭に対する支援
（3）障害のある子ども及びその家庭に対する支援
（4）特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
（5）子ども虐待の予防と対応
（6）要保護児童等の家庭に対する支援
（7）多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

「相談援助」「保護者支援」「ソーシャルワーク」をキーワードに前期15回、後期15回の内容にアレンジ

【出典】
「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」全国保育士養成協議会
（https://www.hoyokyo.or.jp/http://www.hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/reference/29-3s2.pdf）

「リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）」のシラバス

【前期授業計画】全15回

回	テーマ	内容・ワーク	「子育て支援」で該当する内容
1	保育における相談援助とソーシャルワーク	保育において相談援助やソーシャルワークが必要とされる背景やその理由について学習する	
2	自己覚知	ワーク「OKグラム」	
3	疑似体験と他者理解	「車椅子体験」	
4	疑似体験と他者理解	「ブラインドウォーク」	
5	援助関係の理解Ⅰ	ワーク「ブッダとハッチ」	
6	援助関係の理解Ⅱ	ワーク「自他の価値観」	
7	相談援助の理論・機能とその意義	バイスティックの7原則、ショート事例検討	子どもの保育とともに行う保護者の支援
8	保育相談援助の専門性と対象理解	専門職としての価値及び倫理、ショート事例検討	日常的・継続な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成

対人援助専門職として、
- 自己理解と他者理解
- 自他の価値観とその多様性
- コミュニケーション　を学習。

＋

<u>クラスづくり</u>

「リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）」のシラバス

【前期授業計画】全15回

回	テーマ	内容・ワーク	「子育て支援」で該当する内容
9	保育相談援助の方法と技術・アプローチⅠ	直接援助技術、間接援助技術、代表的なアプローチ方法	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
10	保育相談援助の方法と技術・アプローチⅡ	相談援助の環境構成、援助者の態度、姿勢、面接技法	
11	ソーシャルワークの基礎的理解	グループワーク（SWの理解）	
12	ソーシャルワークの基礎的理解	グループワーク（SWの理解）	
13	ソーシャルワークの基礎的理解	グループワーク（SWの理解）	
14	ソーシャルワークの基礎的理解	プレゼンテーション（ソーシャルワーク）	
15	ソーシャルワークの基礎的理解	プレゼンテーション（ソーシャルワーク）	

事例検討やワークも活用

【グループの内訳】

①社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の概念・体系・原則
②社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の過程
③個別援助技術（ケースワーク）と保育への適用事例
④集団援助技術（グループワーク）と保育への適用事例
⑤地域援助技術（コミュニティワーク）と保育への適用事例

「リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）」のシラバス

【後期授業計画】全15回

回	テーマ	内容・ワーク	「子育て支援」で該当する内容
1	相談援助の展開過程	インテーク、アセスメント	
2	保育における関係機関との連携・協働	社会資源の理解と活用	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
3	保育における多様な社会資源（専門職）との連携・協働	多職種連携と協働	職員間の連携・協働
4	フィールドワークの基礎	保育士課程2年ゼミのメインイベント！	
5	社会資源の活用、調整、開発Ⅰ	グループワーク（フィールドワーク先の下調べ）	子ども及び保護者の状況・状態の把握
6	社会資源の活用、調整、開発Ⅱ	グループワーク（フィールドワーク先の下調べ）	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
7	社会資源の活用、調整、開発Ⅲ	グループワーク（フィールドワーク先の下調べ）	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

フィールドワークの概要

【目的】

①児童福祉関連の実践現場を訪問し聞き取り調査を行うことで、子どもを取り巻く現状に関する理解を深める。

②グループワークを通して、保育士として必要な素養である「同僚性」を涵養する。

【調査時期】

10月以降（学生が調査先と日程調整の上実施）

【調査先】（県内）

乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、児童相談所、児童発達支援センター、発達相談支援センター、子育てふれあいプラザ、子育て支援センター、子育てサロン、育児サークル　など

※　以上の調査先をゼミごとに振り分ける。
各ゼミ3グループに編成し、調査にあたる。

「リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）」のシラバス

【後期授業計画】全15回

回	テーマ	内容・ワーク	「子育て支援」で該当する内容
8	事例分析Ⅰ	グループワーク（事例検討）	障害のある子ども及びその家庭に対する支援
9	事例分析Ⅱ	グループワーク（事例検討）	子ども虐待の予防と対応
10	事例分析Ⅲ	グループワーク（事例検討）	要保護児童等の家庭に対する支援
11	保育相談援助における計画・記録・評価Ⅰ	マッピングを中心とした記録理解	支援の計画と環境の構成
12	保育相談援助における計画・記録・評価Ⅱ	マッピングを中心とした記録理解	支援の実践・記録・評価・カンファレス
13	ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析Ⅰ	プレゼンテーション（フィールドワーク）	保育所等における支援
14	ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析Ⅱ	プレゼンテーション（フィールドワーク）	地域の子育て家庭に対する支援
15	ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析Ⅲ	プレゼンテーション（フィールドワーク）	子ども・保護者が多様な他と関わる機会や場の提供

「リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）」のオンライン授業実施計画案

【東北福祉大学の授業予定】

・5月18日（月）～　オンライン授業開始（前期は8月28日まで）

本日（5月9日）現在、まだ授業は開始していないため、
「計画案」のお話となります。ご了承下さい。

実施方法

【実施方法】

- Google Meet または Zoomを活用した双方向型授業。
- ノートPC（入学時に全員に貸与）、スマホを活用。
- 毎回のプリント配布×　⇒　PPT資料を作成し、画面共有を活用。
- グループワーク

⇒　Zoomのブレイクアウトルーム、ホワイトボードを活用。
Meetでも、グループ分Meetを立ち上げると、「ブレイクアウトルーム」的な活用が可能な様子。

青山学院中等部・高等部講師の安藤昇氏が提供しているYouTubeの「GIGAチャンネル」より「オンライン授業でグループに分けて通話させたい」（https://ict-enews.net/2020/05/07gigachannel/），2020/05/07

シラバスの主な変更点

【授業内容】

◇体験型学習（車いす体験、ブラインドウォーク）
　⇒　LGBTQに関する事例問題（他者理解、多様性の尊重）

◇フィールドワーク
　⇒　担当施設の「パンフレット」づくり
- 限られた紙面の中で、いかにわかりやすく正確に情報を伝えられるか。まとめられるか。
- 相手にとって知りたい事柄、必要な事柄が網羅されているか、見やすい資料となっているか。
- 調べて自分が理解するだけではダメ。
- 発表して満足とも違う。

↓

施設理解、職種理解、対象者理解、サービスの理解

実施上の留意事項

上村先生、永井先生のアドバイスから

◇学生の学習環境　⇒　授業開始前に確認

◇ZoomやMeetの操作

⇒　第1回目授業でオリエンテーション。
操作がうまくいかず、もれてしまう学生がいないように。
（ゼミで操作に慣れていれば、他の授業でもスムーズに受講できるのでは）
「少しずつ慣れていきましょう」

学生の「緊張感」を和らげる
（オンライン授業に対する緊張感、
「初めまして」のゼミに対する緊張感）

◇不具合が生じた時の対応

⇒ 動画を撮影し、
後日Edu Trackにアップ。

◇授業時間（40分目安）　⇒　学生の集中力、次の授業への配慮

オンライン授業にあたって意識すること

永井先生のアドバイス

◇顔出しに抵抗がある学生への配慮

◇「大人数のZoom授業はクラスの一員と感じにくい」

⇒　学習意欲低下

◇「通学課程」としての遠隔授業の心構え

「丁寧な学習支援、手厚い学生支援がなければ
通信教育と変わらない」

伊藤先生のアドバイス

一体感、仲間意識をいかに醸成するかがかぎ

教員による意図的な声がけ、コミュニケーション。

（できるだけ最初のうちは、満遍なく学生に声をかける。疎外感、寂しさを感じないように）

教員と学生、学生と学生同士で信頼関係が築けるような
クラスづくり（それを兼ねられるワーク）を意識する。

オンライン授業にあたって意識すること

永井先生のアドバイス

◇学生の「受けやすさ」を大事にする。

◇教員に思い入れがあっても、（動画が長いと）学生に響かないことがある。

青木先生のアドバイス

学生の立場に立って考えることが大切。

学生に伝えたいこと、教えたいことはたくさんあるが、
オンライン授業では盛り込みすぎると逆効果。

伊藤先生のアドバイス

手厚い授業を見つめ直す

学生の「主体的な学び」を引き出すための内容、
学生と共につくり上げる授業を意識する。

今 予定している授業のスライドを
少しお見せします。

（第1回～第3回）

2020年度　第1回

リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）

【担当教員】
和田明人、河合規仁、青木一則、君島昌志
利根川智子、山﨑敦子、高野亜紀子

本日の内容

Ⅰ　Zoomの機能と操作説明

Ⅱ　授業の進め方の説明

Ⅲ　みんなで自己紹介

Ⅰ　Zoomの機能と操作説明

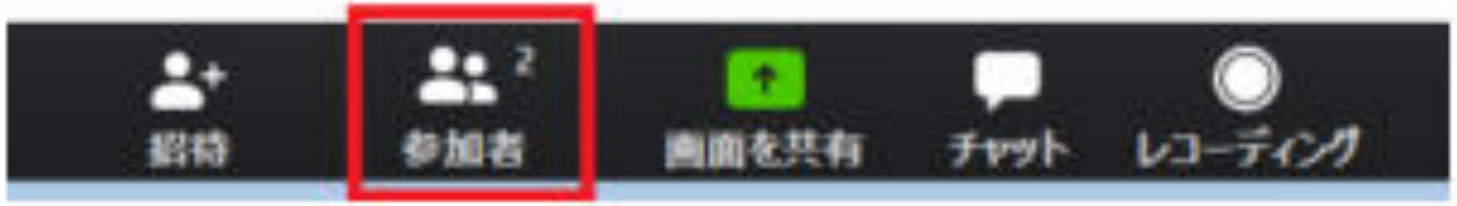
- 皆さんが【PC】でZoomに参加することを前提に説明をしていきます。
- マイクのミュートは解除せずに、説明を聞いて下さい。

1. 画面に表示される名前を変更する

◇Zoomの機能を試してみる前に、画面に表示される名前を自分の学籍番号、フルネームに変えてみましょう。

【手順】

①画面下の「参加者」をクリック。



②画面右側に参加者の名前一覧が表示されるので、その中から自分の名前にカーソルをあわせ「詳細」⇒「名前の変更」の順でクリック。

1. 画面に表示される名前の変更

③名前の変更画面が表示されるので、
名前を変更して「OK」をクリック。

これで完了です。

では、皆さんの顔と名前が一致したところで、
出席確認をします。

2. 非言語的なフィードバック機能

◇名前を呼ばれた人は、フィードバック機能を使って返事をして下さい。

【手順】

①画面右下の「反応」ボタンを押します。

②「拍手」と「いいね」ボタンが出てくるので、どちらか好きな方を押して下さい。

3. ミュート機能

- 左下のマイクのイラストボタンを押すと、ミュートを入切することができます。

【注意】

- 授業中は基本的に教員の方でミュートの設定、解除を行います。
- 一斉に話し出すと大変なことになるので、皆さんの方で解除しないようにして下さい。

4. チャット機能

・ミーティングの最中に、全員に対して、あるいは参加者の中の誰か一人に対して、メッセージを送ることができます。

【手順】

①画面下中央の「チャット」ボタンをクリック。

②画面右側に「グループチャット」が表示されます。

③「グループチャット」欄の下で送信先を選びます。

④文章を打った後、Enterを押すとメッセージが送信されます。

4. チャット機能

◇では試しに、自己紹介をかねて全員に
「私の好きな食べ物は〇〇です」
と送ってみましょう。

◇次に、送信先をゼミ担当教員に限定して、
「皆さんの名前と生年月日」
を送ってみましょう。

◇ちなみに、チャット機能を使って
電子ファイルを送受信すること
もできます。

8. その他

- 授業中、
  ▽通信が途中で切断されてしまった方
  ▽通信状況が悪く参加できなかった方　　のために、

  録音、録画をさせて頂くことがあります。
  あらかじめご了承下さい。

以上で大まかな機能の説明は終了です。
皆さんで試行錯誤しながら、少しずつ慣れていきましょう。

Ⅱ　授業の進め方の説明

オンライン授業の方法

◇形式（当面の間）

- 同時双方向型（リアルタイム配信）による授業
  …Google Meet、Zoomなどを活用。
  開始5分前には、ミーティングルームにお入り下さい。
- 必要に応じて、Edu Trackに資料を掲示しますので、ご確認下さい。

◇授業の開講時間

- 各ゼミごとに、時間割どおりの曜日、時間に実施します。

Ⅲ　みんなで自己紹介

残りの時間を使って、順番に自己紹介をしていきましょう。

2020年度
リエゾンゼミⅠ（福祉実践演習）　第2回

保育における相談援助と
ソーシャルワーク

本日の内容

Ⅰ　リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）における
　　学習内容の説明

Ⅱ　アイスブレイク：「みんなで連想ゲーム」

皆さんの緊張感が少しでもほぐれるように、
少しでもお互いが仲良くなれるように、
チーム対抗でゲームをしてみましょう！

Ⅰ　リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）における学習内容の説明

1. 授業のテーマ

保育士が行う相談援助と保護者支援

2. 授業の目的

保育との関連におけるソーシャルワークの基礎的技術を習得する。

すなわち！
リエゾンゼミⅠ（福祉実践演習）のキーワードは…

相談援助　保護者支援　ソーシャルワーク

ここでちょっと考えてみましょう。

保育士は保育の専門家なのに、なんでソーシャルワークを勉強しなきゃいけないの？？

子どものお世話がちゃんとできていれば、別に十分なんじゃないの？

なぜ【相談援助】とか【保護者支援】とか
ましてや【ソーシャルワーク】の勉強が必要なの？

◇保育士の定義

【児童福祉法　第18条の４】
「保育士とは、第18条の18第1項の登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもつて、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう」

つまり、保育士にとって、
【児童の保育】だけでなく【保護者に対する保育指導】も
重要な業務の一つ！

在園児の保護者だけでなく地域の保護者にも、保育所の特性を活かし子育て支援をすることが求められている（保育所保育指針）

◇保護者への「保育指導」とは

- 保護者に「あぁしなさい」「こうしなさい」と指示すること。

- 保護者からの質問に何でも一方的に教えること。

- 子どもに対しふさわしくない行為をしている保護者にダメ出しをし、一方的に責め立てること。

◇保護者への「保育指導」とは

正しくは…保育者の専門性を活かした保護者支援業務のこと。

「子どもの保育の専門性を有する保育者が、
保育に関する専門知識・技術を背景にしながら、
保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、
保護者の気持ちを受け止めつつ、
安定した親子関係や養育力の向上をめざして行う
子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示
その他の援助業務の総体をいう」　（保育所保育指針による定義）

◇ソーシャルワークとは

- 法制度、機関、施設を効率的に運営し、困難に陥っている個人、集団、地域を効果的に援助するための知識、技術の体系。

- 生活課題を抱える対象者と、対象者が必要とする社会資源との関係を調整しながら、対象者の課題解決や自立的な生活、自己実現、よりよく生きることの達成を支える一連の活動。

【簡単にいうと…】
福祉の法制度やサービスを利用し、生活上の困難を抱えている人が自ら対処する能力を高めるように支援していくこと。

- ソーシャルワークを実践する専門家が、ソーシャルワーカー（日本の場合、社会福祉士、児童指導員など）。

えっ？じゃぁ、別に保護者が抱える問題は、社会福祉士とかが対応してくれれば良いんじゃないの

子どもに関する相談は、保育所じゃなくて、児童相談所とか保健センターにいってもらえばいいんじゃない？

…なんてことを言っていて良いのでしょうか？？

◇「保育指導」に携わる場面

- 保育所への登降時
- 保護者懇談会や参観日
- 一時保育
- 園庭開放
- 保育所で行っている育児サークル

…などなど、日常のさり気ない関わりの中で始まる場合が多い。

多彩な場で多様な対応が求められることが特徴

保育者はソーシャルワークの専門家ではないが、
保育の場においては、ソーシャルワークの実践主体となる。

保育者一人ひとりが、ソーシャルワークに用いられる基本原則を理解しながら、相談援助の技術を身につける必要がある。

◇保育におけるソーシャルワーク

① 生活課題を抱える対象者と、対象者が必要とする社会資源との関係調整。

② 対象者の課題解決や自立的な生活、自己実現、よりよく生きることの達成を支える。

③ 対象者が必要とする社会資源がない場合
⇒ 必要な資源を開発する。
対象者のニーズを行政や他の専門機関に伝える。

④ 同じような問題が起きないように、対象者が他の人々と共に主体的に活動することを側面的に支援する。

（厚生労働省「保育所保育指針解説書」（2008））

◇ 授業の概要（内容）

ソーシャルワークの体系から、
①保育者に必要な基礎的知識・技法の習得　と、
②子ども家庭福祉の現場および保育者による子育て支援・保護者支援の実際的理解を図る。

【前期】相談援助技法の基礎の習得、文献研究等によるソーシャルワークの基本学習
【後期】フィールドリサーチなどを行い、前期・後期ともに成果をプレゼンテーションにより共有する。

これらの学びを通して、保育ソーシャルワークの素養と、保育者における同僚性と協働性の素地を培う。

Ⅱ　アイスブレイク

－　みんなで連想ゲーム　　-

ゲームの進め方

1. 教員がゼミ生を①赤チーム、②青チーム、③緑チームの3つのグループにわけ、簡単に自己紹介をします。

2. まずは赤チームの皆さんにお題です。
皆さんが今いる部屋の中で、「赤いもの」を一つ探して、30秒以内にカメラの前に戻ってきて下さい。
【注意】
赤いものなら何でも良いわけではありません。
できるだけ、自分と同じチームの他のメンバーが選びそうな「赤いもの」を連想し、探してきて下さい。

ゲームの進め方

3.　メンバーがそれぞれ持ち寄った「赤いもの」のうち、
　　1ペア（2人が同じものを持ってきた）　⇒1点
　　2ペア（2組がそれぞれ同じものを持ってきた）⇒2点
　　3ペア（3人が同じものを持ってきた）　⇒3点
　　4ペア（4人以上が同じものをもってきた）　⇒4点

4.　赤チームが終わったら、青チーム、緑チームも同じように連想ゲームをして、得点の高いチームが優勝！

まじめに他の人が選びそうなものを探すのもよし！
ウケ狙いで絶対他の人が選ばなそうなものを探すのもよし！
お互いが少しでも仲良くなるために、楽しみましょう！

2020年度
リエゾンゼミⅠ（福祉実践演習）　第3回

自 己 覚 知

【お願い】
今日は「OKグラム」というワークをやりますので、手元に
①白い紙（ルーズリーフでもノートでもOK）
②筆記用具
③定規　を用意して下さい。

本日のテーマ

☆対人援助職として、保育者が自己覚知を行う意義を理解しよう。

☆「OKグラム」を通して、今まで気づかなかった【自分自身】の内面を理解しよう。

僕って、私って、
どんな人間なんだろう？

Ⅰ　自己覚知の必要性

本題に入る前にちょっと質問です。
自分自身を振り返りながら答えてみましょう。

あなたは…

どんなことをされると【嬉しい】ですか。

どんなことを言われると【腹が立ち】ますか。

どんなことがあると【がっかり】しますか。

どんな人をみると【応援したく】なりますか。

どんな時に【緊張】しますか。

スラスラ答えることができたでしょうか？

では、もう少し考えてみましょう。

あなたは…

家にいる時の【自分】と

外で誰かと会っている時の【自分】

は、一緒ですか？

【親しい人と一緒にいる自分】と

【あまり面識のない人といる時の自分】

は、一緒ですか？

自分が思っている【自分】と、人から思われている【自分】は一緒でしょうか？　自分が知っている【自分】がすべてでしょうか？

1. 自己覚知の必要性

◇保護者への援助場面において保育者に求められる姿勢

①受容的、支持的、共感的な態度で保護者の話しを傾聴する。

②保護者やその家庭の個性や価値観を尊重しつつ、現状や今後の方向性について話し合う。

このような ⇒ 関わりを通して･･･

保護者は
①保育者への信頼を深め
②自らの置かれている状況や自身のあり方について、落ち着いて振り返ることができる。

1. 自己覚知の必要性

◇しかし！反対に保育者の
①否定的、批判的な感情が伝わったり、
②主観的な問題認識に基づく解決方法などが一方的に保護者に
おしつけられたりすると･･･どうなるだろうか？？

↓

①信頼関係が形成できない　　ばかりか
②ソーシャルワーク自体が成立しない！

（「そういう先生には相談したくない。何も話したくない」と、
保護者が保育者に壁をつくってしまう）

①保育者の態度
②それを土台とした保護者との信頼関係
がソーシャルワークの基盤といえる。

1. 自己覚知の必要性

◇保護者との援助関係には、保育者の
①価値観　②感情　③思考　④反応傾向
が反映されやすい。

◇保護者から相談を受けた時
保護者と子どもとの関わりを見た時
の保育者の言動（反応）は、保護者に大きな影響を与える。

保育者は、
①自身の価値観や感情、反応の適切さなどをよく知り、援助関係において自分で自分を適切にコントロールするために
②自身の特性、能力を積極的に用いるために
自分について良く理解しておくこと（自己覚知）が必要。

1. 自己覚知の必要性

◇自己覚知とは

- 援助者自身が意識的に自らのことについて深く知り、自己の理解を目指すこと。
- 援助者になる上で、欠かすことのできない重要なステップ。

- 日常の言動や態度への意識的な振り返り　や、
  他者との交流の中での自己の反応などに意識を置くこと
  でも自分への気づきは深まる。

★まずは【自分という存在】に関心を向けてみよう！

今日は、「OKグラム」をつかって、
今まで気づかなかった（意識しなかった）自分の内面と向き合ってみよう。

Ⅱ　「OKグラム」をやってみよう

1）　「OKグラム」の進め方

①　白い紙（ルーズリーフでもノートでもOK）と筆記用具、定規を用意して下さい。

②　今から教員が質問を全部で50問読み上げるので、問題番号と回答を手元の紙に記入していって下さい。

【回答の仕方】

○：あてはまる　　△：まぁあてはまる　×：あてはまらない

【回答の書き方】

枠は書かなくても良いので、書く場所だけ気をつけて下さい。

問題番号の右に回答を記入。

問題番号はタテに並べていく。

問題番号	回答	点数
1	○	
2	○	
3	×	
4	△	
5	○	
⋮ 以下略	⋮	

右側は後で点数を記入するので、空けておいてね。

1）　「OKグラム」の進め方

回答が終わったところで、

③　回答の右側に、〇、△、×の点数を書いていきます。
　　点数は、
　　〇：2点　　△：1点　　×：0点　　として下さい。

④　続いて、50の問題番号を、今から言う5つのグループに分けて、
　　グループごとに合計点数を出します。

（面倒ですが、ランダムに問題を並べることに意味があるので、
ご了承下さい…）

1）　「OKグラム」の進め方

まず最初に…U（－）グループ
問題番号　5、13、15、16、23、26、32、36、37、39
の点数を合計してみて下さい（全部で10問分）。

次に…U（＋）グループ
問題番号　8、9、17、18、25、27、28、31、33、34
の点数を合計してみて下さい（全部で10問分）。

つづいて…A グループ
問題番号　41～50
の点数を合計してみて下さい（全部で10問分）。

1）　「OKグラム」の進め方

その次は…Ⅰ（＋）　グループ
問題番号　　1、3、6、10、11、21、24、29、38、40
の点数を合計してみて下さい（全部で10問分）。

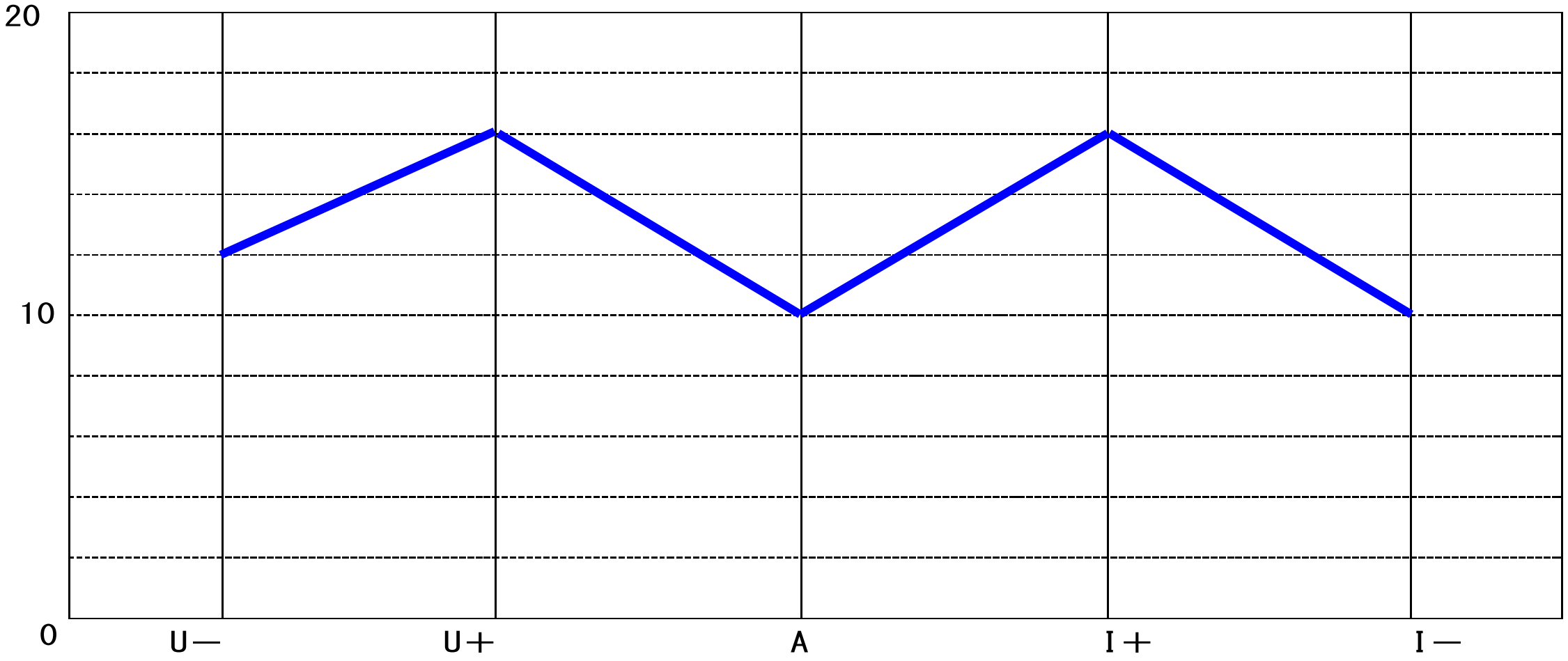
最後に…Ⅰ（－）グループ
問題番号　2、4、7、12、14、19、20、22、30、35
の点数を合計してみて下さい（全部で10問分）。

⑤　それぞれのグループごとに合計点数がでたら、次のスライドのように折れ線グラフをります。

折れ線グラフの例

タテ軸は点数（0点～20点）、ヨコ軸はアルファベット。

例）　U（－）が12点、U（＋）が16点、Aが10点、
　　I（＋）が16点、I（－）が10点　　の場合



お疲れさまでした。作業は以上で終了です。

では、結果の解説に進む前に…

- 一番点数が高かったアルファベット
- 一番点数が低かったアルファベット

はどれか、確認してみましょう。
（複数あっても構いません）

4回目　「自他の価値観」

- 自分の価値観に気づく。
- 自他の価値観の違いと多様性を理解する。
- ブレイクアウトルームの使い方に慣れる。
（もしくは、Meetを用いたグループワーク）

・
・
・

徐々に専門的な内容に入っていく予定。

最後に…

前向きに捉えたいこと

◇学生の力を信じる、能力を引き出す。

▽学生に寄り添いつつ、コミュニケーションのとり方（方法、距離感）に工夫を。
▽教員も不慣れ、正直うまくいくか不安…
でも、この気持ちは「実習に行く前の学生の気持ち」に似ているかも。
⇒　だからこそ学生と一緒に学びをつくり上げる。
授業づくりに学生を巻き込む。

前向きに捉えたいこと

永井先生
「お互い試練だけれど、乗り越えた先に得られるものがあるだろう」

◇学生にとってもこの経験が、将来の「援助者としての自分」にいきるように。

▼自分にとって新しい出来事、先行きが見えない出来事に直面した時の不安。

▼その不安をどう解消し改善に向かったか。

（人との関わり、サービスの活用、氾濫する情報への対応、等々）

↓

保護者の不安に気づける力、寄り添える力を醸成。

前向きに捉えたいこと

永井先生
「お互い試練だけれど、乗り越えた先に得られるものがあるだろう」

◇新たなツールを使いこなせるようになる
⇒　様々な保護者のニーズに対応するための手段、
援助をするための方法　を新たに手に入れた。

◇使いこなせるようになることだけが収穫ではない。
援助を求めている人に合うサービスがないなら、
必要な社会資源がないなら、
それを新しく創り出すことも大事な対人援助の一つ。

新しいことを習得するのは大変。創り出すには労力も時間もかかる。
でも、互いの協力関係があれば、何とか軌道にのる。
そしてそこから更に良いものを創り出せる。　という援助過程に似ているのでは。

前向きに捉えたいこと

◇ピンチをチャンスに

出来事（事実）は一つ。でもその捉え方（見方）は二つ以上。

- 物事の捉え方は自分次第。
- 物事の良い面に目を向けることの大切さに気づく事ができたら…。

それは、

保護者やその家庭がもつ力に着目し、強さを引き出し、
それを積極的に活用して援助する方法
（エンパワメントアプローチ）
に繋がるかもしれない。

このような見通し、道筋を立てることができるようになったのも、

◇第1回～第4回の研究会でご高話下さった先生方、
◇研究会に参加し、チャットやブレイクアウトルームを含め、貴重なご意見をお聞かせ下さった先生方

のお陰です。

誠にありがとうございました。